

2021年11月23日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【「クリスマス相場」が始まります】

本日(11月23日)は、「勤労感謝の日」で日本の祝日だが、今週の木曜日(11月25日)は、「サンクス・ギビング・デイ(感謝祭)」で、米国の祝日だ。

これらの祝日を終わると、毎年の外国為替市場は、「クリスマス相場」の様相を呈してくる。

「クリスマス相場」とは、市場参加者が極端に少なくなり、為替レートが、ほとんど動かなくなる状況を指す。

そして、ひとたび重大なニュースがあると、市場参加者が極端に少ないために、為替レートが飛ぶように大きく変動する。

マーケットに厚みが無く、為替レートの振れ幅が大きい状態になるのだ。

当然のことながら、為替レートに影響を及ぼすような重大なニュースがあるのか、無いのか、事前には、誰にも分からない。

つまり、「クリスマス相場」は、その対応が難しい相場つきであることに、間違いない。

だから、毎年、「クリスマス相場」が近づくと、積極的に参入しないことを推奨している。

+++++

毎年、年末が近づいて来ると、  
「今年の相場も難しかった」  
と感ずることが多い。

今年(2021年)の相場は、特に、そういった感が強い。

それは、「コロナ禍」が長引いていることと無関係ではない。

また、世界を見れば、「コロナ禍」が収まった訳ではない。

その一方で、日本では、極端に、感染者数が減少しているのに、その原因がはっきりしない状態が続いている。

理屈が分からないので、せっかく感染者数が減少しているのに、その対処法を有効に利用できない。

感染者数の減少を、ただ有難いと感謝するのみでは、能が無い。

物事には、原因とその理屈が判明しないと、利用価値が無いのだ。

このような情勢では、今年の「クリスマス相場」も、積極的に参入しない方が良さそうだ、と考えている。

「クリスマス相場」が終わって、新年を迎えれば、外国為替市場は、直ぐに、本格的にスタートする。

別な言い方をすれば、年初はロケット・スタートなのが外国為替相場だ。

「クリスマス相場」は、充電の期間と考えれば良い。

「休むも相場」という格言があるが、「クリスマス相場」はその典型と考えます。

++++  
++++

(2021年11月23日東京時間14:20記述)